

ウエイ ラ ミン テイエン

为了明天

—— 明日のために ——

子どもたちに希望を 人々に友情を

特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

<http://www.sokeirei.org>

民間の友好協力を重ねて、確かな平和共存を目指します — 中国農山村教育支援の継続に、ご理解とご協力を！ —

一昨年9月2日の朝日新聞の記事「対中貧困支援で深まる交流」を読みました。日本NGOの対中貧困支援活動取材記事でしたが、その中で、貴州省長順県の扶貧弁公室主任が「北京での五輪開催も決まったので、中国が開発途上国として国際援助をこのまま受け続けることができるのはあと10年ばかりかもしれない。その間に絶対貧困（年収1人500元前後）の人々をどれだけ減らす事が出来るだろうか」という内容の心配をしていたと伝えていました。

JCC代表団が、昨年9月、母子保健支援現地視察で貴州省凱里市三棵樹鎮を訪れたとき、貧しさの様々な様相を目前にして心を痛めました。途中立ち寄った賞郎小学校の校舎は、60年代の下放青年が豚や牛を飼育していた建物を改造したもので、窓には戸が入っていないのに室内は薄暗く、雨が降ると床に水が溜まる、と話していました。出迎えてくれた子どもたちは痩せていましたが、瞳はきらきらと輝いていました。

この子たちは、何学年まで在学できるだろうか、とふと思いました。先頃開催された中国全国人民代表大会での報告で、恩家宝首相は、（就学率は90数%に達しているが）9年の義務教育終了率は、全国平均で76%、貧しい西部の省・自治区では40～50%に過ぎない事に言及し、重要課題とすると表明しています。



早速、大学生たちが、凱里市三棵樹鎮の児童100名に対する年額1人1500円の就学支援奨学金を設けて下さったが、さらに多くの子どもたちへの支援が求められています。

すでに、小中学生350名に奨学金を給付している河北省易県の山村からも、受給生を増やして欲しいという要請が来ています。JCCは、受給生を250名から300名に増やし、給付金額を1000円から1500円に増額して対応します。同県の女子中学生に対しては、新協定書による柳田奨学金（年額1人3000円）の継続が決まっています。

皆様のご支援による2004年度のJCC奨学金は、330-A地区ライオンズクラブ・東京代々木ライオンズクラブの寧夏教育支援及び内蒙古自治区出身留学生の蒙族小学生支援も含めると、小学生680名、中学生160名・師範生36名に対して、総額226万円の給付となります。

2003年度で小学生就学支援を終了した吉林省永吉県から、ご支援くださった皆様への心からの感謝をつづった書状と過去6年間の支援金の用途に係わる報告が届きました。内蒙古自治区通遼市教育局からもお礼状が届いています。

前述の記者は、「援助とは交流である」と言い切り、「貧困対策を急ぎたい中国側の機運に援助で応え、心を重ね合えるなら、交流は一層深まるであろう」と結んでいます。

（久保田博子）

ご支援のおかげで三棵樹鎮衛生院は飛躍的發展の道を歩み始め 女性たちの出産と保育に対する意識も大きく変わりつつあります

ミャオ族・トン族等少数民族が95%を占める凱里市三棵樹鎮は、長い間経済、文化、交通等の立ち遅れと古い習俗の影響により、助産・入院分娩の普及、妊産婦及び新生児に対する管理が極めて低い水準にあり、衛生院自身も対応力が乏しく、産科救急に応じる事が出来なかった。そのため、毎年40名前後の新生児が死亡していた。

こうした中、2002年7月、凱里市政協副主席の指導の下、母子保健に対する申請活動を開始した。これを上海宋慶齡基金會の「生命工程」が受け止め、日本のJCCに協力を要請した。JCCは、これを緊急プロジェクトとして、02年秋から03年春にかけて多くの方々から募金をお願いし、産科新生児科医療機器設備16品目の寄贈と医師・助産師の研修訓練経費の助成を内容とする、約400万円の支援で対応した。

三棵樹鎮では、03年7月、鎮長を組長、鎮衛生院長らを副組長、各村委員会関係部門責任者をメンバーとして、プロジェクト指導グループが結成された。凱里市婦幼保健院は、本プロジェクトに対して、院長を組長とする技術指導組を結成、鎮衛生院のために、研修と業務技術指導を4回行った。また、貴州省衛生庁副庁長らが同衛生院を訪れ、母子保健センター設立に係わる援助受入れ準備を指導した。

同年8月、三棵樹鎮人民政府は、鎮の全家庭に書面で通知を出し、自宅出産における新生児の死亡あるいは母子双方の死亡を避けるために入院分娩の必要性和重要性を強調、出産にあたり医師・

助産師の指導、検診を受ける事を勧めた。さらに、経費を一律100元以内に抑える事、貧困家庭の場合は減免する事などを公約した。

同年9月15日、凱里市三棵樹鎮衛生院に母子保健センター落成。JCC代表団が支援目録を贈呈し母子保健センター視察、研修講座を参観した。

3ヵ月後の報告

【研修と訓練】

- 1 鎮村のスタッフの研修実施により、専門技術が向上した。
- 2 妊娠期間の保健管理と健康管理を主とする研修を実施—参加者延べ193名

【母子保健における状況の改善—成果:03年1月~11月】

- 1 出産数488人の内、安産481人、新法による助産429人、助産率89%
 - 2 妊婦のカード管理数455人、カード作成率93%
 - 3 妊婦のシステム管理数369人、システム管理率76%
 - 4 産前検査数453人、延べ1798人、出産前検査率92%
 - 5 産後の定期検診455人、延べ1206人、定期検診率93%
 - 6 3歳以下の児童保健管理者数653人、保健管理率27%
 - 7 積極的な宣伝と経費軽減により、入院出産を促進した:03年7月~11月出生数228人、入院分娩63人、入院分娩率27% (02年度は10.3%)
- ★入院出産率の目標は、05年度までに40%達成—このため、衛生院長は、貧困な妊婦に対して、1人当たり100元の援助をJCCに要請した。
- 8 新生児死亡7人 死亡率14%、嬰兒死亡16人 死亡率32%
 - 9 妊婦死亡0
 - 10 入院分娩93人、入院分娩率19% (02年度は10.3%)

最後に

「このたび、宋慶齡基金會日中共同プロジェクト委員会の産婦人科を主とする設備援助は、当院の産婦人科技術のレベルを飛躍的に高め、産婦人科救急サービス能力を増強した。16種の機器設備の使用は、診療能力を高めただけでなく、作業能率を上げ、半分の努力で倍の成果を得る役割を果たし、援助の効果は絶大であった。」と述べ、日本の友人の期待に応えるために努力を続ける、と結んでいる。



母子保健センター最初の赤ちゃん

日中戦争期の日本人の中国観

東京学芸大学名誉教授 阿部 猛

劣等民族観

かつて、日本人は中国人について著しい偏見を持っていた。ヨーロッパでは、人口灌漑による農業を基盤とするアジア社会は「停滞社会」であるとの見解がふつうであった。

更に、明治後期からの日本の学界では、日本の歴史の中にヨーロッパの歴史との類似性を見出そうとし、アジア社会の中で、日本のみがヨーロッパ的な道を進み、近代化を達成したとの考えが強くあった。

中国を劣等視する傾向は、学校教育における中国軽視、偏狭な日本精神の鼓舞などによって助長された。もちろん、中国文化や歴史、伝統に敬意を払うべきであるとの主張もあったが、それは少数派であった。

戦場を見た人々

昭和14年の陸軍特務機関の報告書によると、在留日本人や旅行者が、中国人に対して偏見を持ち無理解である状況を憂え、「永遠の平和」を確立するためには、「軍事力」で威圧するのではなく、教育によって正しい中国観を養い、中国人から信頼されるようにならなければならないと述べている。しかし、学校教育の場では全く改善は見られなかった。

中国大陆での戦争が拡大し、多くの兵士やマスコミ関係者が中国社会を見聞した。作家日野葦平は、子どもに宛てた手紙で、「支那人ハ カワイソウダヨ センソウノタメ 家ハヤカレテシマイ 食ベモノ ハナク」と書き、兵士の一人は「国と国あひたたかふもこの捕虜に吾れ憎しみの心持たなく」と詠んだ。戦場で命をかけて戦う兵士たちは、徒らに異民族をののしるのではなく、却って一人の人間としてゆるし合う心を持ったのである。

事実を知ること

拡大した戦線に手を焼き、停滞した戦局に焦りを感じた指導者は、予想外の中国側の抗戦意識の高さを感じており、「抗戦意識もなお侮り難く」と告白した。

著名な、亀井文夫監督の映画「戦ふ兵隊」は、その写実性の故に上映禁止となったが、亀井自身は「戦争の中絶を心から待望していた」が、「必ずしも気負った気持ちで反戦映画を作ろうとしたわけではなかった」「戦争で苦しむ大地、兵隊も農民も含めて、そこに生きる人間、馬や一本の草の悲しみまでも、のがさず記録したいと努力した」と述べている。「事実」の報道が国民の意識に影響を与えることを政府は恐れたのである。

ご支援に感謝!! 図書コーナーのプレゼント

当会発足以来、2003年度までの図書は、河北省・吉林省・寧夏回族自治区の小学校17・中学校1校のほか、河北省興隆と黒龍江省北安の図書館にそれぞれ1セット(8万円)ずつ、総計20セット(160万円)が贈られた。

2003年度は吉林省の中学校と、河北省の小学校5校で、その中の2校、「易県紫荆関鎮蓄色園小学校」「同、西陵鎮南大地小学校」を、JCCの理事2名が訪問した。易県の教育局局長はじめ、局及び学校関係の人々と交流し、各学校の質素な図書室に寄贈の図書セット(書架と児童書)が

設置されているのを視察、その際、教師や児童達に囲まれて絵本の「よみきかせ」と折り紙などを実演した。北京から両校への道程は、往復約400キロ。岩肌の露出した山並みや末枯れた玉蜀黍の畑を見ながら、ジープで走りに走って行った。

帰途、清代の皇帝の陵(西陵)と易水のほとりに寄り、寸時、中国の遥かなる歴史を偲んだ。図書は、今年度、河北省と貴州省の辺地の小学校に寄贈の予定。引き続きよろしく願いいたします。



第2回 総会 開催

2004年2月28日、NPO法人となって第2回目の総会を開催しました。前期の役員に加えて新たに理事として、山下知子さん・佐藤明子さん、監事に堀越信子さんが就任しました。尚、JCC発足以来、事務所の提供など多くのご支援を頂いた監事の井上与一さんは、退任されました。これまでのご厚意に心からお礼申し上げます。

2004年度は、これまでの事業の継続に加え、9月には、上海から幼児教育視察団を迎える予定です。今年も、ご支援よろしく願いいたします。

事業経過報告

2003年1月1日～2003年12月31日

プロジェクト内容		前期繰越	当期募金額	事業実施額	現在積立額
プロジェクト1-1	幼児教育	30,000	55,000	0	85,000
プロジェクト1-2	母子保健	1,065,947	3,310,000	3,956,800	419,147
プロジェクト2	奨学金	1,089,000	854,000	1,010,000	933,000
プロジェクト3	図書セット寄贈	495,000	260,000	480,000	275,000
プロジェクト4	寧夏教育支援	0	1,620,000	1,620,000	0
プロジェクト5	内モンゴ教育支援	300,000	0	200,000	100,000
合計		2,979,947	6,099,000	7,266,800	1,812,147

収支計算書

2003年1月1日～2003年12月31日

●収入の部	
寄付金収入の部	
会費寄付	1,712,410
プロジェクト寄付	6,099,000
1. 幼児教育寄付	55,000
2. 母子保健寄付	3,310,000
3. 奨学金(河北省・吉林省)	854,000
4. 図書セット寄贈	260,000
5. 寧夏教育支援	1,620,000
6. 内モンゴ教育支援	0
カンパ	166,203
寄付金収入合計	7,977,613
その他収入の部	
自主事業収入	43,226
雑収入	0
受取利息	7
その他収入合計	43,233
当期収入合計	8,020,846
前期繰越金	5,058,377
当期総収入	13,079,223

●支出の部

事業支出の部

1. 幼児教育支援	0
2. 母子保健事業	3,956,800
3. 奨学金	1,010,000
4. 図書セット寄贈	480,000
5. 寧夏教育支援	1,620,000
6. 内モンゴ教育支援	200,000
事業支出合計	7,266,800

運営費支出の部

1. 振込料金	26,970
2. 管理料	282,848
3. 水道光熱費	63,394
4. 旅費交通費	11,050
5. 通信費	270,962
6. 広告費	401,616
7. 会議費	101,163
8. 国際交流費	73,500
9. 消耗品費	356,643
10. 海外送金料	27,000
11. リース料	117,180
12. 雑費	138,048

運営費支出合計	1,870,374
支出の部合計	9,137,174
次期繰越金	3,942,049
当期総支出	13,079,223

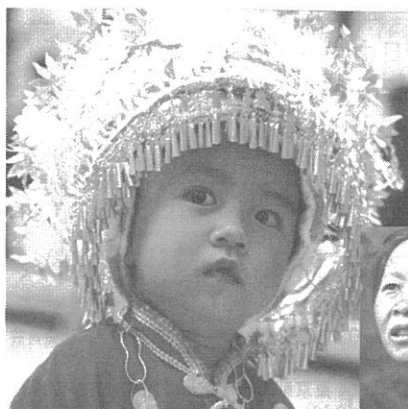
JCC活動日誌 2003年8月2日～2004年4月3日

[2003年]

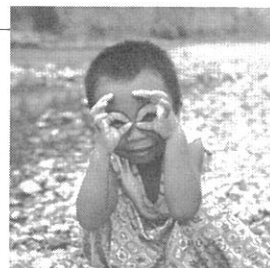
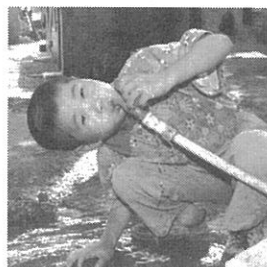
- 9月 6日 第9回事務局会議：母子保健現地視察について
- 9月13日～19日 第5次訪中団派遣：上海宋慶齡基金会・中国福利会代表团と共に貴州省凱里市三棵樹鎮・惠水県訪問(久保田、須藤、山下、井岡、澤田、白鳥)
- 9月15日 凱里市三棵樹鎮衛生院に母子保健センター落成、JCC代表团より支援目録贈呈
- 9月25日～27日 第6次訪中団派遣：中国宋慶齡基金会(北京)スタッフと共に河北省易県を訪問、図書寄贈先小学校にて読書指導等の交流(三浦、井岡)
- 10月 4日 第2回理事会：上半期事業経過報告及び新規奨学金開設について
○第3回JCC中国講座：阿部猛氏「日中戦争期における日本人の中国観」(クリエイトホール)
- 10月18日 第10回事務局会議：04年度奨学金給付、上海宋慶齡基金会学前教育代表団の受入れについて
- 10月28日 外務省経済協力局無償協力課訪問：中国宋慶齡基金会・上海宋慶齡基金会の申請項目について(久保田・須藤・井岡)
- 11月 2日 JCCチャリティーバザー(からまつ保育園にて)
- 11月17日 03年度JCC奨学金1,050,000円、LC奨学金810,000円を北京に送金
03年度創大学生奨学金150,000円を上海に送金
- 11月22日 第11回事務局会議：04年度事業計画及び予算案、中国映画《北京ヴァイオリン》上映会実施について
- 11月27日 中国宋慶齡基金会(北京)より東京代々木ライオンズクラブ女教師育成奨学金協定書(調印完了)が届く[2003年]
- 12月13日 第12回事務局会議：年度末処理関係
- 12月23日 上海宋慶齡基金会の管建華さんから連絡：幼児教育代表団の目的・日程・構成・参観希望、2004年上海国際少年児童文化芸術祭の案内

[2004年]

- 1月13日 中国宋慶齡基金会の杜愛平さんから連絡：中国宋慶齡基金会の事務所移転及び03年度プロジェクト実施状況について
- 1月17日 第13回事務局会議：第2回総会議案及び2004年度JCC日程案について
- 1月19日 中国福利会児童戯劇院副院長方軍さん、JCCに来訪
- 1月28日 《北京ヴァイオリン》上映会に対する八王子市後援承諾
- 1月29日 同上映画会に対する八王子市教育委員会後援承諾
- 2月 6日 貴州省凱里市三棵樹鎮衛生院より、母子保健センター建設プロジェクト経過報告書及びJCC支援妊婦名簿が届く
- 2月10日 貴州省凱里市三棵樹鎮の妊婦に対する03・04年度入院出産援助金30万円を上海に送金
- 2月18日 03年度事業会計監査(上村監事)
- 2月21日 第14回事務局会議：第2回総会準備
- 2月28日 第4回理事会：総会議案の承認
第2回総会：03年度事業及び収支決算報告、04年度事業計画及び収支予算、第2期(04年度・05年度)役員の選任
臨時理事会：正副代表の互選及び顧問の委嘱
- 3月 3日 中国宋慶齡基金会の杜愛平さんから03年度プロジェクト関係書類が届く
- 3月12日～18日 新保敦子理事、寧夏回族自治区教育支援現地視察
- 3月15日 「市民自主企画事業(財)八王子市学園都市文化ふれあい財団助成事業」の《北京ヴァイオリン》上映会に対する助成決まる
- 3月20日 方軍さんの舞台芸術研修に協力：能楽宝生会に招待(須藤副代表理事)
- 3月28日 第15回事務局会議：“為了明天”第7号発行、第4回JCC中国講座、中国映画上映会等の準備
- 3月30日 2003年度事業等について東京都に報告
- 4月 2日 上海宋慶齡基金会幼児教育代表団受入準備会
- 4月 3日 “為了明天”第7号発行



ミヤチ トン
苗族・侗族の人々
(貴州省凱里市)



三棵樹鎮の
子どもたち



市民自主企画事業 (財)八王子市学園都市
文化ふれあい財団 助成事業

チャリティー中国映画会

北京ヴァイオリン

6月12日(土) 11時と14時 2回上映

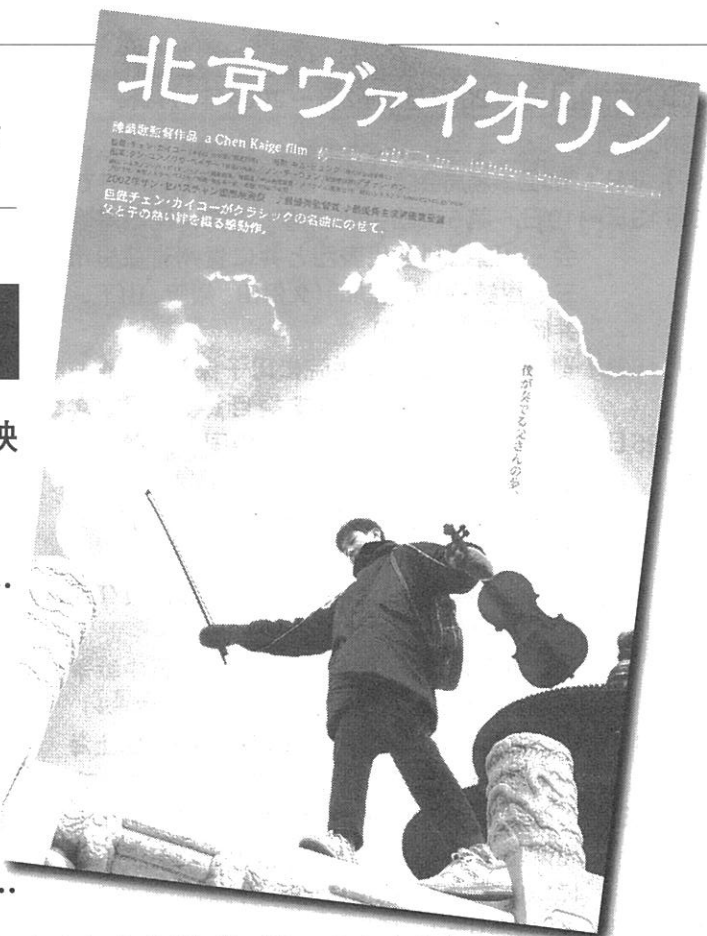
八王子市芸術文化会館
いちようホール・大ホール

上映協力券 1,000円

主 催 NPO法人 宋慶齡基金会
日中共同プロジェクト委員会

後 援 八王子市・八王子市教育委員会

●未就学のお子さまはご遠慮ください。



少年の奏でるヴァイオリンは、人々の心にやさしさを呼び、潤いをもたらした。
父は息子の才能を育てるため、貧しい農村から大都会・北京に移り住む。
しかし、そこは急激に変貌した競争社会だった。「さらばわが愛—霸王別姫」で知られる
巨匠チェン・カイコーが名曲にのせて、父と子の熱い絆を綴る感動作。

第4回 JCC中国講座

近代100年の中国と日本

講師：久保田文次さん
(日本女子大学教授)

近代100年の間の日中関係といえば、
日本の侵略戦争が頭に浮かぶ。この
戦争を直視するとともに、両国間の
文化の交流や中国近代化に対する
日本の促進作用も考慮してみる。

日 時：2004年4月10日(土) 14～16時

場 所：八王子市クリエイトホール10F 第2学習室
JR八王子駅北口2分(ヨドバシカメラ近く)

参加費：500円

●主 催：NPO法人宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会

●連絡先：〒192-0901 東京都八王子市子安町1-43-6-206
TEL / FAX 0426-46-4210

編集 後記

早々と白木蓮の花が咲き、例年より早く桜も開花の
春分の日、東京は以外にも雪が降り、気温の激しい変
化に人も花も驚かされた。昨秋訪れた河北省では、早
害を嘆く声を聞いた。史跡「易水」は、水が涸れて、ただ茫茫と
草原になっていた。今年、慈雨の恵は如何かと案じつつ、世界中
の自然と、社会の平穏を祈るばかりである。(三浦克子)

「为了明天」No.7

2004年4月3日発行

題字：周 肖

編集：三浦・井上

発行者：NPO法人宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会
久保田博子

〒192-0904 東京都八王子市子安町1-43-6-206
TEL/FAX0426-46-4210

郵便振替：00170-2-152423

UFJ銀行八王子支店(普通)5182198